

宗門総合振興計画

Vol.42

過疎対応支援員の活動報告①

宗門では、宗門総合振興計画の一環として、必要な教区へ「過疎対応支援員（以下「支援員」という。）」を配置しています。

2021年4月30日現在、16教区（富山、石川、福井、岐阜、滋賀、京都、奈良、和歌山、山陰、四州、備後、安芸、山口、大分、宮崎、鹿児島）に配置し、さまざまな活動をしていただいております。



和歌山教区の
楠原晃紹支援員

今回は、和歌山教区の楠原晃紹支援員（日高組妙願寺住職）の活動の一端をご紹介します。

和歌山教区紀南組の 寺院を視察巡回

のうち14カ寺を廣澤教務所長と共に視察巡回し、現況をお聞きする機会をいただきました。

2月5、6日の2日間、紀南組18カ寺

住職が不在の寺院もありましたが、立地条件や環境、集落の状況などを観察し



西法寺の外観

ながら南下していくうち、次第に寺院間の移動距離が長くなっていきました。教区内14組のうち、紀南組は和歌山県のほぼ半分の面積を占めているにもかかわらず、寺院数では教区内20余カ寺のうち、わずか6・5%に過ぎません。

ほとんどの寺院は、海岸に近い市街地の比較的人口の密集している地域にあり

ます。しかし、昨今は後継者がなく、ご門徒の方々も減少している寺院が少なくありません。

過疎の山村、門徒が寺を守る

今回の視察訪問では、紀南組で唯一、山村部に位置する古座川町西川の西法寺様を訪問することを第一の目的に掲げておりました。

古座川町は、1975（昭和50）年には人口5300人を数えましたが、その後10年ごとに数百人規模で人口が減少している過疎地域です。現在の人口は2500人余りで、わずか50年足らずで人口が半分以下となっています。

すさみインターチェンジから険しい山道を1時間近く走り到着した西法寺様は、ここ数十年

も住職が不在で、数十キロ離れた串本町古座・善照寺様の山本昭隆住職が住職代務をされ、ご門徒方の努力で護持されているお寺です。

門徒総代の南有助さんから、かつては日曜学校が盛んだったこと、お寺から



西法寺の護持に尽力されている総代の南有助さん(右)と視察に同行した廣澤教務所長(左)

4、5キロほど離れた集落から大勢の方が歩いて参拝されたことなどをお聞きしました。今では小学校なども廃校となり、高齢者ばかりの村になったことで、今後の寺院運営には不安が募るばかりだと漏らされました。

本堂の仏華には南さんの自宅のセンリョウが生けられ、日頃から内陣のお荘厳や掃除などを小まめにされているのがひと目でわかりました。

山村地にお念仏薫る方々が現在もひっそりと暮らし、お寺の護持にご尽力くださっていることに頭が下がるひとときでした。

お念仏がひろまった陰に、

妙好人・長兵衛の存在

古座川沿いを下った善照寺様でも、山本住職から西法寺様についてお話を伺いました。

それによれば、江戸後期ごろ現在の古

座川町真砂に、善照寺様のご門徒で、長兵衛と呼ばれた妙好人（篤信の念仏者）・雑賀屋玉置長兵衛という方がおられ、この方の影響で西法寺様を中心とした山村部にお念仏が広まったとのこと。

長兵衛の玉置家は一昨年後継者が途絶え、代々の墓碑数十基を整理されたそうですが、山本住職が妙好人・長兵衛の墓碑だけは後世に残したいと、善照寺様の境内に移してその遺徳を顕彰されています。

今回の視察巡回でお伺いした寺院の現況については、教区寺院振興対策委員会で報告を行い、現況を踏まえ寺院への今後の支援対策について話し合っていくとともに、引き続き当該寺院の関係者から、寺院の今後について意向を確認しつつ対応したいと考えています。

引き続き、教区教務所と連携した対応を取り組んでいきたいと思えます。

最後に

今回は、和歌山の教区報「さぎのもり」にも掲載し周知されている活動内容ではありますが、広く支援員の活動を周知すべく、教区内の寺院の実情を把握するため、教務所長も同行し関係者から話をお伺いいただいた活動内容について掲載いたしました。

今後も、それぞれの支援員の活動について紹介していきます。

（寺院活動支援部〈過疎地域対策担当〉）